

## 地域おこし協力隊の任期を終えて

2人の地域おこし協力隊員が3年間の任期を終えました。  
任期中に学んだこと、そしてこれからのこと。  
新たな一歩を踏み出した2人にお話を伺いました。

### 縁もゆかりもないまちに ご縁を感じて移住を決意

札幌市出身で、前職は大阪市でサラリーマンとして働き、ずっと都会で暮らしてきた青山さんでしたが、出張で全国を回るうちに田舎の良さに気づき、「自分には田舎暮らしが合っている」と感じて移住することを決めました。いくつか候補があった中で、ホームページで安芸高田市のことを発信していた住吉さんと出会い、とある梨園の後継ぎがいなくて困っていることを知ります。もともと大阪でも趣味で野菜を作っていた青山さんは、安芸高田市で農業を学ぼうと地域おこし協力隊に応募しました。

任期中は、向原町の社会福祉法人ひとは福祉会のひとは農園に通い、イチゴやブルーベリー、桃などのフルーツや野菜の栽培に携わるとともに、障害のある利用者さんのサポートも行ってきました。同時に安芸高田市の農業の現状をインスタグラムで発信し続けました。「地域の人と密

に過ごすことができた貴重な時間でした。人の温かさを肌で感じた3年間でした」と青山さんは振り返ります。

### 夢を叶える「桃園」の 第一歩を踏み出す

任期終了後の活動を考えていた時、ひとは農園が桃の栽培をやめると知った青山さん。果物農家の夢を叶えるべく、その桃の木を譲り受け育てることにしました。今後は、引き続きひとは農園で働きながら、「いずれはこれで生計を立てられる桃園にしたい」と考えています。同時に、米作りにも取り組んでいく予定です。

また、地域の人とのつながりをこれからも大切にしたいという思いから、草刈りなど地域の困り事の代行事業も始めていきたいと考えています。「縁あって移住することになった安芸高田市でこれからも暮らしていきます」と話してくれたその目は、すでに明るい未来を見据えていました。

[ Instagram ] akitakata.nougyou



令和4年9月退任  
青山直樹さん

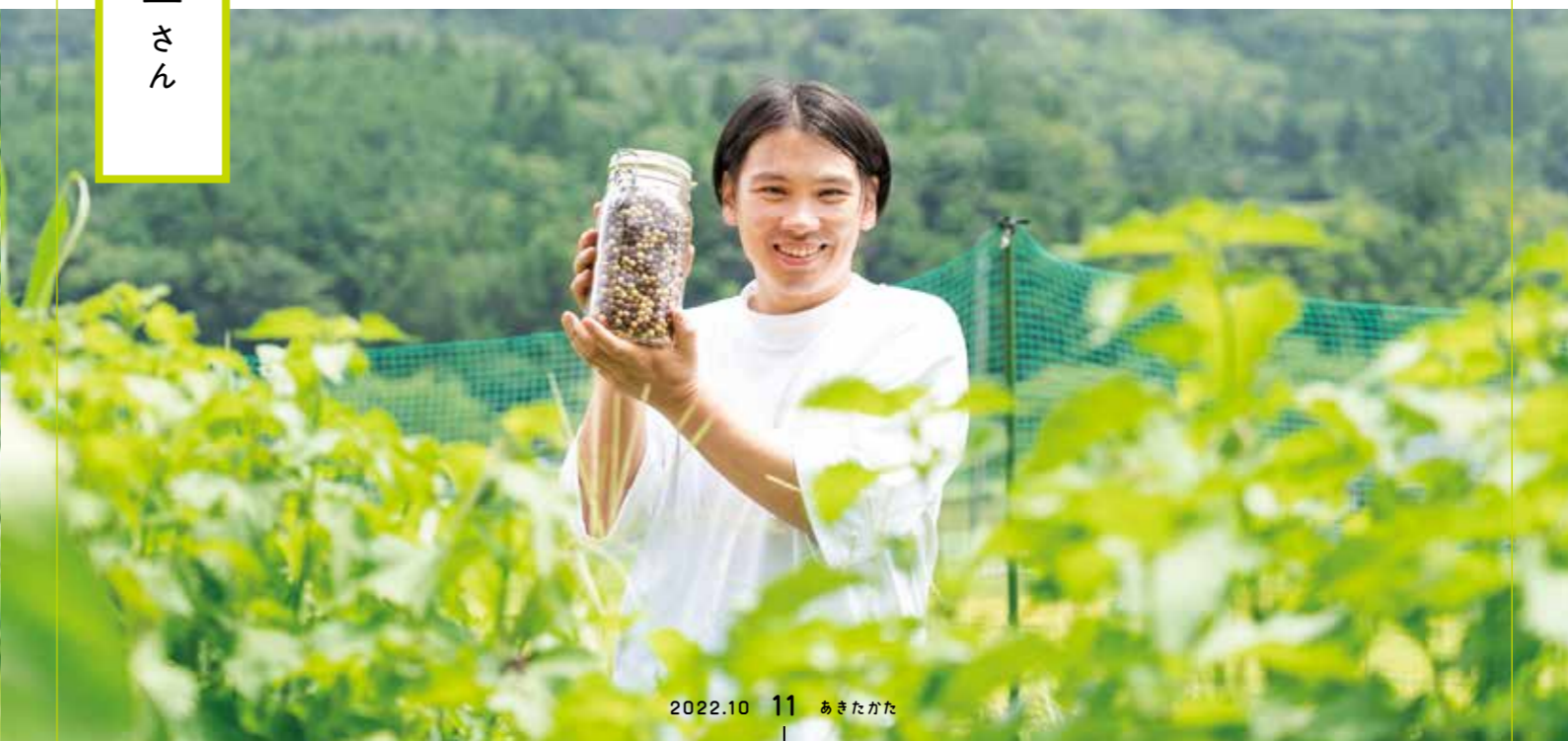


### 農業の担い手に届け！ インスタで魅力発信

「農業の情報発信」をミッションにこれまで活動してきた竹原さんは、就任直後、農業法人を訪問して、スタッフとともに農作業をしながら自分自身が経験したことをインスタグラムで紹介してきました。半年後からは、自身の体験記から作り手の思いを伝える内容にシフトチェンジするために自ら取材・撮影をスタートし、農業法人の成り立ちや作っている作物・商品の紹介、こだわりや思いなどをブログで発信。「特に求人につなげたいという思いが強かったです。内容をより具体的にし、安芸高田市で農業をやりたいという人を増やしたかった」と話します。

任期2年目には前職のグラフィックデザイナーの経験を生かして農業を盛り上げる発信方法を模索し、たどり着いたのがドキュメンタリーの制作。子どもたちが市内の野菜をおいしそうに食べるリアルなシーンを撮影し、それとともに野菜の詳しい説明やレシピなどを紹介する新しいコンテンツを立ち上げました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり一時中断していますが、竹原さんの洗練されたデザインによって市内で作られる野菜がブランディングの一歩を踏み出しています。

令和4年8月退任  
竹原真二さん



### 3年間の学びの集大成 植物由来の「MITATE meat」

3年目には、これまで地域おこし協力隊として学んだことを一つの形にしたいという思いから、大豆のハンバーグ作りに挑戦しました。原材料は全て植物由来、自然栽培で作られた市内産の大豆を使ったフェイクミートのハンバーグです。「健康志向の方が増え、フェイクミートの需要は高まっています。テクノロジーの進化でその風味や食感もどんどん肉本来のものに近づいてきました。どうせ作るのならお肉の代用品としてではなく、新しい食べ物を誕生させたい」と言う竹原さん。

考案した大豆ハンバーグは「MITATE meat(見立てミート)」と名付けられ、県主催のビジネスセミナー『ひろしま「ひと・夢」未来塾』のプレゼンで優秀賞を受賞。これを機に本格的な商品化に向けて進み始めました。現在、向原駅にある「フードショップたけだ」のレンタルキッチンで製造をスタートし、9月中には完成し商品化予定です。今後は、イベントなどの出展から始め、知名度をアップしていく予定です。

竹原さんはデザインの仕事を続けながら、「MITATE meat」の普及に力を注ぎます。

[ Instagram ] mitate\_meat

